

第 22 回サル類の疾病と病理のための研究会ワークショップ 2013

日時：平成 25 年 7 月 6 日（土）13 時～19 時 宿泊

会費：宿泊 17,000 円 WS のみ 6,000 円，WS+交流会 10,000 円

場所：岐阜ホテルパーク 〒500-8009 岐阜県岐阜市湊町 397-2

<http://www.hotelpark.jp/>

参加申し込み期限（事前申し込みのみ）：平成 25 年 6 月 15 日

SPDP ホームページより：<http://spdp.jp/>



テーマ：「ニホンザルの利用，その臨床と病理」

ポスター：症例およびその他

実行委員会：委員長：柳井徳磨，副委員長：鈴木樹理，事務局長：平田暁大（あきひろ），

委員：中村紳一郎，兼子明久

演題：

1. 基調講演：サル類をめぐる最近のうごき 吉川 泰弘（千葉科学大） 13:00-13:30

2. ニホンザルの生物学的特徴：ニホンザルの遺伝的背景 川本 芳（京大霊研）

13:30-14:00

3. バイオリソースプロジェクトにおけるニホンザル：伊佐 正（岡崎生理研） 14:00-14:30

4. ニホンザルの臨床病理学的背景

兼子 明久（京大霊研） 14:30-15:00

コーヒーブレイク・ポスター発表 15:00-16:00

Poster 作成の要領：幅 90cm，高さ 120cm

要旨：タイトル，発表者を含め 1200 字以内（word にて 10.5 ポイント明朝体にて）

要旨の期限：平成 25 年 6 月 15 日 要旨送付先：yanai@gifu-u.ac.jp（word 添付）

5. ニホンザルの病理学的背景

①背景病変，柳井 徳磨（岐阜大） 16:00-16:20

②リンパ腫 平田 暁大（岐阜大） 16:20-16:40

③特徴的な感染症

SRV-4 鈴木 樹理（京大霊研） 16:40-17:00

STVL 江口 克之（首都大） 17:00-17:20

B virus 大沢 一貴（長崎大） 17:20-17:40

結核症 高橋 雅之（天王寺動植物公園） 17:40-18:00

交流会（長先生をしのぶ会）18:30-21:00（板垣伊織代表：長先生の思い出）

ミッドナイトセッション「SPDP の国際戦略」（鈴木樹理，柳井徳磨，板垣伊織）21:00～

金華山登山（希望者のみ）7月7日（無料）

口頭発表およびポスター発表の要旨の例

ニホンザルの動脈に認められた粥状硬化症の病理学的特徴

柳井徳磨，平田暁大，酒井洋樹（岐阜大・獣医病理），後藤俊二（京大・霊研）

緒言：動脈硬化症は，人において依然として生活習慣病の一つとして重要視されている。同症には，粥状（アテローム）硬化症，中膜硬化症および細動脈硬化症があり，中でも粥状硬化症は，その成因として食べ物や運動不足などの因子が関与することが知られている。今回，愛玩用に飼育されていたニホンザル2例（症例1および2）の大動脈に粥状硬化症が認められた。サル類では，アカゲザルおよびカニクイザルで，実験的に動脈硬化症が作出されているが，野生および飼育下でのニホンザルにおける動脈硬化症の報告は比較的少ない。ニホンザルにみられた動脈硬化症の病理学的特徴を調べ，さらに飼育環境に関連した発症機序を検討した。

材料と方法：症例1は雄の成獣，症例2は雌の成獣で，いずれも年齢は不明，14年前に野生個体を捕獲後，愛玩用として飼育され，安楽死された。飼育環境は，比較的狭小なケージ内で飼育され，餌は長年に亘り飲食店から出る残飯を与えられた。

結果および考察：肉眼的には，症例1では胸大動脈の内面に淡黄色顆粒状の斑状小隆起が多中心性に認められた。症例2では肉眼に動脈に著変はみられなかった。組織学的には，症例1では，胸大動脈から腹大動脈にかけて，多中心性に内膜肥厚が種々の程度に認められた。しばしば，肥厚した内膜と中膜の間に粥腫の形成が認められた。粥腫では，弾性線維の消失がみられ，膠原線維の水腫性膨化および脂肪化が認められ，しばしば泡沫様マクロファージの浸潤とコレステリン結晶の浸潤を伴っていた。内膜の粥腫が高度な部位では著明な線維化に陥り，さらに中膜にも結合組織の増加が認められた。粥腫における石灰化とその崩壊に至る粥腫性潰瘍は認められなかった。症例2では，症例1に比較して粥腫の程度は軽く，腹部大動脈において中等度の内膜肥厚，その硝子化および線維化が多中心性に認められた。本症の形態学的特徴および発生機序は，人の粥状硬化症それに共通していると考えられた。すなわち，高コレステロール食および運動不足に関連して，血行力学的影響等で血管内皮が障害され，次いで中膜の収縮型平滑筋細胞が遊走型平滑筋細胞として内膜側に立ち上がる。さらに内膜に平滑筋細胞が蓄積した結果，線維性内膜肥厚に陥り，肥厚した内膜の深部に脂質が沈着。内皮側からマクロファージが浸潤し脂質を貪食，内膜の内皮側で線維増生が発生し，粥状硬化症が完成したと考えられた。ニホンザルは，人の粥状動脈硬化症に良く似た病態を示すことから，アカゲザルと同様に動脈硬化症のモデル動物として有用であると考えられる。

文献（あれば）：